

# 一次救命処置の保健教材に関する一考察

安野 新平 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導員 中菌 伸二

キーワード：保健教材 一次救命処置 「授業書」方式

## 1. 緒言

心臓突然死は、日本では毎年約 5 万件発生している。突然心停止になった人に対し自動体外式除細動器を用いて早く電気ショックを与えることが出来れば、その救命率は大きく向上する。日本では 2004 年 7 月から市民による AED の使用が許可された。それに伴い、誰もが一次救命処置（心肺蘇生+AED）の知識・技術の習得が重要と考える。特に、中学・高校年代の子どもたちには、AED の使用・増加という現状の中で、より早い年代から一次救命処置の知識や技術を習得することが求められると考える。

本研究では、中学生向けに一次救命処置の「授業書」方式による保健教材案を開発した。実際の心停止の場面に遭遇したときに、一次救命処置（心肺蘇生+AED）が実践できるよう、保健教材案の作成を試みた。

## 2. 研究方法

AED での早期ショックをすることで救命率、社会復帰率が上昇をすることを調べ、一次救命処置をすることの重要性を明らかにし、現在の学習指導要領の中での一次救命処置の位置づけを調べる。その上で、一次救命処置に関する文献等を参考にし、中学生が興味を持てるよう「授業書」方式の保健教材案を作成する。

## 3. 結果と考察

文献を調べた結果、小学校学習指導要領には、一次救命処置に関しては、まったく触れられていなかった。中学・高等学校の学習指導要領では、少しではあるが触れられていた。しかし、具体的な保健教材はあまり無く、生徒が一次救命処置を理解できるとは、考えにくかった。そこで、一次救命処置の保健教材案を「授業書」方式で作成した。

## 4. まとめ

中学校学習指導要領では、一次救命処置に関しては、あまり触れられていない。また、実践的なそれに関する保健教材開発も、少ないと考えられた。そこで、本研究では、実際場面でも活用できる一次救命処置の保健教材案を開発した。また、AED の早期使用により救命率、社会復帰率が上昇するかを調べた結果、早期ショックによるそれらの向上が明らかであった。そこで、一救命処置を実施する目的を含めた保健教材案を「授業書」方式による問題として開発した。

## 参考文献

- 文部科学省(2009) 中学校学習指導要領 保健体育編. 東山書房.
- 日本赤十字社(2007) 赤十字救急法基礎講習教本. 日赤サービス.